

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0176700540), 法人名 (有限会社そうせい舎), 事業所名 (グループホームあつたか大黒II号館), 所在地 (稚内市大黒5丁目10-23), 自己評価作成日 (令和3年12月1日), 評価結果市町村受理日 (令和4年3月31日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

焦らない、急がない、慌てない、落ち込まない。力を抜いたのんびりケアで利用者さんがゆったり、楽しく暮らして行ければと日々研鑽しています

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0176700540-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年12月17日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内中心部に近い大黒地区にあり、JR南稚内駅や大型スーパー等、交通や買い物の利便性も高い地域で、自然環境も静かな環境下に立地している。当事業所は2019年4月に市内の宝来町から移転、新築の建物で当地で事業を継続開始となった。法人としては、宅老所として長年老人をお世話してきた経緯があり、培ったサービスを新築の事業所の2階で1ユニット9人の生活を支える力として充分に発揮している。事業所の1階は従前のケアプラザセンターを引き継いでおり、また当事業所と隣接して2010年に開設したあつたか大黒I号館があり、1階と2階は廊下で繋がれ行き来が自由になっている。3つの事業所が1か所に統合され、今まで以上にI号館、II号館、ケアプラザセンターの一体化が強く意識され、相互協力体制が維持されている。当事業所の介護に対する基本的なスタンスでもある「介護者の都合での介護はしない」を前提に、さらに進んで、入浴や外出等々についてもサービスは利用者が選択するという、実施困難な課題にあえて取り組んでいる。変わらぬ尽力に期待したい。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	現行理念は事業所と職員の共通理念であり掲示し日々の実践につなげている	法人理念の他、職員間で話し合い作成した独自理念を掲げている。また、理念、年間目標の達成度について定期的に振り返り、検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域との日常的な交流はできていない	通例では、地域代表の運営推進会議への参加や、災害時の相互の協力体制等、関係の継続に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェなどもコロナ禍で制約があり活発には発信できていない現状です		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催のリスクが高く書面郵送の形をとっている。感染状況を見ながら開催を判断して行く	通例では、家族、地域代表、行政が参加し、定例で開催している。運営状況や現状の問題点が論議されており、メンバーから意見を聞き取り、運営に活かしている。現在は相互の自粛により、書面での開催となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月ホーム紙をお届けしホームの実情や取り組みをお伝えしている	市窓口、包括支援センターからは、定例の運営推進会議での運営状況報告の他、メール・電話での相談や随時指導、アドバイスを受け、運営に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	概ね3ヶ月に1回ミーティングに合わせ委員会を開催し 身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、定例で開催、内容について全職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適切なケアについて、具体的な事例を経過から終息まで職員間で協議し、繰り返す事のないよう周知徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	心無い言葉や仕草が虐待を誘発する事を職員は理解し日々虐待防止に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者さんが成年後見制度を使うことになりミーティングで制度内容など学習している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の改定の場合は改定に至った経緯を十分に説明し理解と納得が得られるように努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんには日々の団らん時、ご家族には面会時や家庭訪問時に意見や要望をお聞きしている	家族には来訪時や電話で近況を伝えると共に、意見・要望を聞き取り、職員間で検討・共有している。また、ホーム便りを発行し、写真を交え生活状況、体調面を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや面談で職員の意見や提案を聞き反映できるものは運営に反映させている	月例のミーティングや申し送りの場で、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、個別の相談には管理者が随時対応する等、働きやすい環境作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職場環境・条件の整備に努め職員がやりがいや向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度初めに研修計画を配布し法人内外の研修を受ける機会の確保に努めている。高校生の介護実習を受け入れ、職員が指導しながら自らのケアの向上につながる様に図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大黒館内でも各部署の行き来を制限している状況で外部の同業者との交流、相互訪問は感染が収束するまでは難しい		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談では環境が変わる事への本人の不安が軽減される様に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困りごとや不安に思っていること、要望などをできるだけ具体的にお聞きするようにし一つひとつ丁寧にお答えしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族のお話の中から最優先されなければならない支援を見極めるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者さんを人生の先輩として敬い、時には生活していく上での工夫や知恵を教えて頂きながらここでの暮らしを作り上げている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは毎月ホーム紙と職員手書きのお手紙を送り近況やエピソードをお知らせしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ対策で出かける事が出来なかったが受診帰りに寄り道ドライブし、なじみの場所を通る様にしている	通例では、希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。現状では電話や手紙の機会を増やし、関係が断たれないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんの相性などで席替えをしたり、トラブルには速やかに対応し利用者さん同士の関係が悪くならないよう努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者さんが亡くなられての契約終了なのでご家族とは月日とともに関係が疎遠になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の会話の中で思いや意向を把握出来る様努めている。言葉のない利用者さんでも表情や仕草から思いを汲み取る様に努めている	センター方式を活用しながら、終末期の意向も含め、利用者本人より会話や表情から思いや希望を聞き取り、把握して、職員間で共有している。家族からも情報を得て、定期的にあセスメントを行い、プラン化に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報をもとにご家族、本人への聞き取りや、これまでのサービス機関関係者からより詳細な情報収集する様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活習慣、既往歴を把握し、現存機能は毎日の過ごしの中で把握する様努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングでモニタリングしている。介護計画が現状にそぐわない様であればご家族と話し合いの上、変更している	個別ケアによる担当者のモニタリング結果を検証し、本人・家族の意見・要望を考慮しながら、介護計画を作成している。また随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝、夕、個別記録をもとに申し送りをし日勤者、夜勤者が情報を共有できるよう務めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーションと契約し、利用者さん全員が毎週健康チェックを受けている。通院が難しい利用者さんへは看護ステーションの母体医院からの訪問診療を受けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年受け入れている介護課程の高校生の現場実習を利用者さんも楽しみにしている。図書館から紙芝居を借りてきて利用者さんと楽しんでいる		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医療事情もあり往診に対応できる病院が限られていて通院が難しくなった場合はかかりつけ医の変更もある事をご家族にお話し了解して頂いている	本人、家族の要望を聞き取り、かかりつけ医とのつながりを大切に支援している。提携医による訪問診療、看護師による医療協力体制があり、利用者の健康状態を職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護時には職員が同席し、看護師に情報を提供するとともに処置の方法等、医療に関しての相談にのってもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時連携シートで詳細な情報提供を提出し病院との情報交換に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にホームで看取りが出来ることをご家族にお話している。重度化の進行段階でその都度ご家族、医師、看護師、ホームが話し合い方針を決めて行く様にしている	契約時に事業所の指針を説明し、同意を得ている。医療機関との連携体制があり、家族と共に終末期を支えるために話し合いを重ねている。利用者の状況に合わせた職員間の話し合いも、適時行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は24時間医療への連絡体制が出来ている。AEDを設置しているが定期的な救命講習が実施出来ておらずすべての職員が実践力を身につけているとは		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を日勤帯、夜勤帯を想定し年2回実施している。災害に備えガス発電機、非常食、水などを備蓄している	消防署の参加も得ながら、年2回の火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。地域の方々には避難後の見守り等、役割もお願いしている。ガス式の自家発電機、備蓄品も用意し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	掃除などで入室する際でも、部屋に入るむね断りを入れ許可を得てから入室している。言葉や口調で人格や誇りを傷つけない様対応している	利用者の立場に立ち、プライバシー、羞恥心に配慮している。日々のトイレ誘導や入浴時の対応等も見直しながら、尊厳を損なう事のないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が指示したり決めつけたりせず選択肢のある問いかけで自己決定できるよう、自分が決めたと感じる様働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間など大まかなタイムテーブルはあるが、その日の利用者さん個々の気分や体調を優先している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベント前に化粧タイムを設けたり着る服を選ぶ手伝いなどをしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり出来ることをしながら準備から片付けまで職員と一緒にしている。不本意ながらコロナ対策で利用者さんと職員の別食が続いている	現在はコロナ感染防止対策として、食事は距離を保ち、提供している。通例では、職員と同席同食・共作を原則として、楽しみある食事の場としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんの中には食の細い方や好き嫌いの多い方もいるが無理強いことなく一日トータルで栄養や水分が摂れるよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨き、口腔ケアは習慣化されている。就寝前に入れ歯は洗浄剤につけ衛生が保てるよう支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し声掛けや誘導を行っている。二人で介助するなどしてトイレでの排泄を支援している	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、自然な排泄となるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による様々な弊害について職員は十分に理解し手している。訪問看護師と相談しながら便秘薬の調整をしている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回は入浴できるように働きかけているが個々の体調や気分もあり無理強いはない。シャワー浴や二人介助など利用者に合わせて支援をしている	声かけに工夫しながら、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。毎日お湯はりしており、事業所都合ではなく、同性介助や時間帯も利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	むくみ軽減の為や入浴後は休息を勧めている 夜間巡回時は眠りを妨げないよう配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が増えたり、新しく処方されたときは職員が情報共有出来るようにしている。嚥下力に合わせOD錠や顆粒にしてもらえる様医師にそうだんしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫や手作業など一人ひとりが出来ることを楽しんでやられている。嗜好品購入の依頼には特に制限することなく応じている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で受診以外の外出はできていない。戸外に出ても敷地内に限られている	通例では、個別に声がけし、日課として出歩くように努め、近隣へ買い物やドライブに出かけている。コロナ禍により外出が難しい時期は、事業所敷地内での外気浴など行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物も行かれず職員が頼まれたものを買ってきている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年は利用者さん一人ひとりが家族に年賀状を出すことにて製作中		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	乾燥時期は居間に濡れタオルをかけ湿度が保てるよう配慮している。壁には利用者さんで作った季節のパネルを飾っている	各ユニットの共有スペースは、採光や温湿度に配慮された開放的な空間となっている。居間では利用者が好きな場所で寛いだり、季節が感じられる装飾があり、家庭的でゆっくりと過ごせる工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置を変えたりして気の合った利用者さん同士や一人ひとりが思い思いに過ごせる様に工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が思うように写真を飾ったり模様替えをしたりしている。各居室には湿度計を掛け乾燥に気を付けている	居室は自宅で使い慣れていた家具が持ち込まれ、思い出の写真や小物がいつも視野に入る場所に掲示されており、意心地良く、安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子利用者さんや杖歩行、シルバーカーの利用者さんが行き来しているがお互いに譲り合ったり、声を掛け合ったりして事故の無い様暮らしている		